

施策 No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	文化財課	主管課長名	寺崎 大貴
2-5	施策名	文化財の保存活用	関係課	商工観光課、学校教育課、都市整備課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
	文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている。	・市民 ・桜川市内に存在する文化財	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467
実績値					41,278	40,483	39,692	38,905	37,852
②指定文化財数			件	見込値	126	126	126	126	126
				実績値	126	126	127	129	129
③登録文化財数			件	見込値	99	99	102	102	102
				実績値	99	102	102	102	102
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	%	目標値	84.7	86.7	87.7	88.7	90.7
				実績値	83.2	81.6	82.3	79.9	82.1
		②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合	%	目標値	54.2	55.2	56.2	57.2	60.2
				実績値	50.1	48.0	54.8	48.8	50.7
		③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数	人	目標値	1,525	1,625	1,725	1,825	1,925
	実績値			1,831	1,401	877	0	0	
				目標値					
				実績値					
			目標値						
			実績値						
成果指標設定の考え方	「文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている」は、①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合を、実測値を80%に維持することにより継承出来ると判断した。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合を実測値50%に維持することにより維持出来ると判断した。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数を増加させることにより、施策の意図が醸成されると判断した。								
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合、②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、市民アンケートより求める。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は、真壁街並み案内ボランティア受付簿より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	令和2年度と比較すると、アンケート結果は向上した。真壁のひな祭りが中止になったものの、企画展示や史跡真壁城跡発掘成果公開、御城印の販売、真壁城主をモチーフとしたキャラクター開発、マップ製作等を行い、あわせて幅広い世代を対象としたHP動画公開、広報に注力したため、文化財の周知や重要性の理解が向上したと考えられる。 真壁街並み案内ボランティアの案内人数については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止することとなったため、実績なしとなった。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①文化財などを大切にし、後世に継承していくべきと思う市民の割合は、令和3年度目標値90.7%に対し、82.1%と8.6ポイント下回った。 ②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は令和3年度目標値60.2%に対し、50.7%と9.5ポイント下回った。 下回る要因は、全体の下落傾向に対して目標値の適正な修正が出来ていないことが乖離を大きくしている。アンケート結果を地区別にみると、指標①では岩瀬地区79.2%、真壁地区84.8%、大和地区85.9%、といずれも高い水準にあるが、指標②では岩瀬地区45.2%、真壁地区58.4%、大和地区48.6%となっており、岩瀬地区と真壁地区とでは約13ポイントの開きがある。 ③の真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動を一時休止しているため実績なしとなった。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
令和3年度に貢献度が高かった事業は、歴史資料館運営・教育普及事業(企画展示、歴史講座)、国史跡真壁城跡保存整備事業(発掘調査・発掘説明会)、文化財保護審議会運営事業(県指定文化財指定「聖護院門跡道興天神名号」)であった。歴史資料館運営・教育普及事業は一般、児童・生徒、幅広い対象を意識した企画展示、発掘説明会等の他、真壁城跡発掘調査の様子や成果の動画配信を継続した。新たな取り組みとしては、真壁城主のキャラクターデザイン「まかべどうむ」や真壁城跡マップの作成・配布があり、文化財に親しみ、愛着を感じられるよう環境づくりを行った。	史跡真壁城跡の発掘調査に注力しているため、史料調査や企画展示に重点を置くことが難しくなっている。体制の整備や資料保存活用の優先順位に関する総合的な情報整理などを行い、活用しやすい収蔵施設の安定的な確保を行う必要がある。また、市内で文化財等の歴史的資産に関する把握状況に地域差があるため、基礎的な調査の必要がある。情報発信や教育普及の取り組みは、効果があり、特に20~30代の客層が目に見えて増加している。引き続き各種イベントやホームページやSNSをはじめとする多様な媒体での情報発信について、継続する。